

第6学年 国語科学習指導案

日 時 平成21年9月10日(木) 5校時
児 童 男9名 女3名 計12名
指導者 川崎 喜生

- 1 単元名 詩を味わおう (光村図書 6年上)
教材名 「船／りんご」(詩)

2 単元について

(1) 教材について

本単元は、以下の新学習指導要領の領域の目標と内容を具現化する学習内容である。

1 目標

- (3) 目的に応じ、内容や要旨をとらえながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。

2 内容

C 読むこと

- (1) ア 自分の思いや考えが伝わるように音読や朗読をすること。
イ 目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫すること。
オ 本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。

〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕

- (1) イ (ケ) 比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。

本単元での主たる指導事項は、「C 読むこと」の指導事項アイオと〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕のイ(ケ)である。これをうけて本単元での主たる目標を「詩に描かれた発想のおもしろさに気づき、その考えを発表しあって作品を味わうとともに、自分の考えを広げたり深めたりする」とした。

4月からの学校生活の中で、最上級生としての自覚が児童の中におのずと熟してきている。一人一人の成熟度は異なっているだろうが、5年生以下の児童たちとは違った心の充実をもつことは確かだ。現代という時代の状況が、必ずしも楽観的なものではないこと、つまり、人間の営みが他の動植物の存在を脅かしていること、国と国との争い、民族間の争いが絶えないこと、貧困と偏見と暴力が人類自身を不幸に追い込んでいくことなど、重要な地球規模の問題に少しずつ気付かされ始めている時期でもある。人類の抱える重大な問題、人間の内面の深さなど、大切な問題に向き合って考える事ができる教材である。教材「船」「りんご」はそれぞれテーマは違っているが、ともに独特な発想によって作られた作品である。児童は題名から感じられるイメージとは想像もつかない内容の展開に驚かされ、作品の魅力に引き込まれていくであろう。このことから、本教材は児童にこれまでの詩の学習で身に付けた力を定着させつつ、独特な発想のおもしろさという視点で学習を進めるのに好材であり、また筆者の考えに対して自分の考えをもち表明するという学習にも好材であるといえる。

(2) 児童について

児童が詩を読むことに関して、まず意欲面に関わる「物語や説明文・詩を読むとき楽しいですか」という意識調査では、12名中9名が「楽しい」と答えた。したがって児童の多くが物語や説明文・詩を読むことは楽しんでいるようである。また、学習方法に関する調査で「どんな学習をしたとき、書かれている内容がわかりますか」という問いでは、最も多かったのが「音読をしたとき」「線を引いて探

したとき」の二つであった。このことから、サイドラインを引いて重要な文や語を探す活動は読みとりの学習で児童にとって有効な手立てとして定着しつつあるようである。さて、これまで児童は5年生の時「未確認飛行物体」「ねぎぼうず」「ケムシ・——」「耳」「蝶」という詩教材を学習してきた。「未確認飛行物体」では詩に込められたテーマを考える学習をし、「ねぎぼうず」「ケムシ・——」「耳」「蝶」では題名と本文との密接な関係を学習してきた。六学年の最後には「生きる」があり、五・六年の詩をすべて学習することで、「詩」という文学の多様性・豊かさを少しでも感じられればと考える。詩に描かれた発想法を読みとることに関して児童は、「未確認飛行物体」の擬人法の表現の読みとりに苦勞する場面が多く見られた。表面的に書かれた語や文章の直接的な意味を読みとることはできるが、いろいろな表現法を通して内包されている作者の思いや物の見方・感じ方を読みとることはまだ十分にできていない児童が多い。

詩の学習での書く活動に関しては、表現を工夫している箇所や自分がいいなと思った箇所、不思議に思った箇所などにサイドラインを引き、そこに自分の感じたことなどを書き込みをするということを行ってきた。明らかに表現の工夫がみられる箇所にはサイドラインを引くことができたが、そこに自分の考えを書き込むことに関してはまだまだ多様な考えを書くことができない。したがって、本單元においては書き込む内容をもっと具体的に例示し、書きやすい様にした。そして、書き込みのバリエーションを増やしながらかれをもとに考えを交流するという経験をさせていきたい。

この單元を通して、多くの児童が作品の発想のおもしろさに気づき、そこに多様な書き込みをして、しっかりと自分の考えをもてるようにさせたい。

(3) 指導にあたって

本單元を指導するにあたっては、「船」「りんご」ともに題名や詩のテーマから児童の連想を自由に出させ、作品がどんな発想で書かれているか予想させる。自分の予想と照らし合わせることで、より確かに作品の発想のおもしろさに気付かせることができると考える。自分で考えた意見、気づき、連想などはワークシートに書き込ませる。そして、それらをもとに話し合わせることで自分の詩へのイメージを豊かにしたり作者の発想のおもしろさを味わわせたりしていきたい。作品を味わったことはそれを児童なりの音読の工夫の仕方でも表現させたい。そして、さらに作者の他の作品を提示し、児童がその中から好きな作品を選んで紹介しあう活動を取り入れることで、より詩の世界への興味を高めさせたい。

意見、気づき、連想などをワークシートに書き込ませる書く活動に関わっては、「言葉のおもしろさ」「発想のおもしろさ」「作者が伝えたかったこと」など視点を与え、まずどの箇所からそう思ったのかを抜き書きさせ、そこに自分のイメージや考えを書くようにさせたい。このことによって、児童一人一人が叙述に即して読みとり、しっかりと自分の考えをもって深める話し合いに臨むことにつながっていくと考える。

3 単元目標

[関心・意欲・態度]

- ・ 二人の作品から好きな詩、表現の巧みな詩などを選んで紹介しようとしている。

[読むこと]

- ・ 詩を読んで、心に浮かんだイメージや感想などをもつことができる。(読(1)イ)
- ・ 自分のもったイメージや考えを発表したり、友達の考えを聞いたりすることができる。(読(1)オ)
- ・ 発想のおもしろさを感じたところを工夫して音読することができる。(読(1)ア)

[伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項]

- ・ 比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。(伝(1)イ(ク))

4 単元指導計画（3時間） **書** ……読みとるための書く活動

段階	時間	学習活動（○）と支援の工夫（・）	評 価
<p>つかむ・ふかめる・まとめる</p>	<p>1 （本時）</p>	<p>「船」を読み，心に浮かんだイメージや感想をもつ</p> <p>○ 「船」という言葉から連想するイメージや作者の発想を予想する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「船」という言葉からのイメージを出させるとともに、それをもとにして作者はどんな発想で詩を書いているか予想させる。 <p>○ 「船」を読んで視写し、「言葉のおもしろさ」「発想のおもしろさ」「作者が伝えたかったこと」などを書き込んだりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 叙述からどの語についてそう思ったかをシートに書き込ませる。 <p>書 自分の考え</p> <p>○ 作者の発想について話し合い、何を語ろうとしているのか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ どの箇所、語から考えたのかを明らかにしながら話し合わせる。 <p>書 自分の考え</p> <p>○ 発想のおもしろさを感じたところが表れるように音読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 友達と聞きあってお互いの工夫がわかるように読み合わせる。 	<p>（関）「船」という言葉からイメージをもったり，作者の発想を予想しようとしていたりしている。</p> <p>（読）心に浮かんだイメージや自分の考えを書いている。</p> <p>（伝）作者の表現の工夫に気付いている。</p> <p style="text-align: center;">〈ワークシート〉</p> <p>（読）心に浮かんだイメージや感想などを発表したり，友達のを聞き，新たに気づいたことを書き留めている。</p> <p style="text-align: center;">〈発言・ワークシート〉</p> <p>（読）発想のおもしろさを感じたところが表れるように音読している。</p> <p style="text-align: center;">〈音読・観察〉</p>
	<p>1</p>	<p>「りんご」を読み，心に浮かんだイメージや感想をもつ</p> <p>○ 「りんご」という言葉から連想するイメージや作者の発想を予想する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「りんご」という言葉からのイメージを出させるとともに、それをもとにして作者はどんな発想で詩を書いているか予想させる。 <p>○ 「りんご」を読んで視写し、「言葉のおもしろさ」「発想のおもしろさ」「作者が伝えたかったこと」などを書き込んだりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ どの叙述からそう思ったかをシートに書き込ませる。 <p>書 自分の考え</p>	<p>（関）「りんご」という言葉からイメージをもったり，作者の発想を予想しようとしていたりしている。</p> <p>（読）心に浮かんだイメージや自分の考えを書いている。</p> <p>（伝）作者の表現の工夫に気付いている。</p> <p style="text-align: center;">〈ワークシート〉</p>

		<p>○ 作者の発想について話し合い、何を語ろうとしているのか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ なぜ「りんご」なのかという視点を考えるポイントの一つとして提示する。 ・ 前半四行の思い、後半二行の状況と作者の思いとに分けて考えさせるようにする。 ・ どの箇所、語から考えたのかを明らかにしながら話し合わせる。 <p>【書】 ノート（話し合いで気づいたことなどを書く）</p>	<p>(読) 心に浮かんだイメージや感想などを発表したり、友達の考えを聞き、新たに気づいたことを書き留めている。</p> <p>〈発言・ノート〉</p>
ひろげる	1	<p>作品集の中から気に入った作品を選び紹介し合う</p> <p>○ 発想のおもしろさを感じたところが表れるように音読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 友達と聞きあってお互いの工夫がわかるように読み合わせる。 <p>○ 二人の詩人の作品集の中から気に入った作品を選び紹介しあう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 二人組で一つの作品を選んで紹介させる。 <p>それぞれが発想などを面白いと思ったところ、お勧めのポイント、学習した「船」「りんご」と比較して似ているところや違うところなどの項目を設定して発表しあうようにする。</p>	<p>(読) 発想のおもしろさを感じたところが表れるように音読している。</p> <p>〈音読・観察〉</p> <p>(関) 二人の作品から好きな詩、表現の巧みな詩などを選んで紹介しようとしている。</p> <p>〈発言・観察〉</p>

5 本時の指導

(1) ねらい

筆者の発想のおもしろさなどを味わいながら、詩を読むことができる。

〈読み取るための書く活動〉

- 「船」を読んで視写し、心に浮かんだイメージや自分の考えなどを書く。
- 「船」を読んで、作者が伝えたかったことをまとめる。

(2) 具体の評価規準

おおむね満足 (B)	努力を要する児童への支援
<ul style="list-style-type: none"> ・ 「船」を読んで視写し、心に浮かんだイメージや自分の考えなどを書いている。 ・ 「船」を読んで、作者が伝えたかったことをまとめている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 具体的におもしろい表現の箇所を指示し、「だれに言っているのか」「なぜこう書いているのか」などの支援をする。 ・ 「なぜ地球をさらう必要があるのか」などの視点を与える。

(3) 展開

段階 時間	学習活動と予想される児童の反応	支援の工夫（・）と評価（◎）
<p>つかむ</p> <p>10分</p>	<p>1 本時学習する詩について予想する</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 今日は「船」という題の詩を学習します。「船」という言葉から連想する言葉を書いてみましょう。 ・ 海, 乗る, 風, 運ぶなど ○ 「船」という詩を書くとしたらその船に何を乗せてみたいですか。理由もつけて書いてみよう。 <p>2 本時の学習課題を確認する</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 今日学習する詩はこんな詩です。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>書く活動 「船」の詩を視写する。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 今日はこの詩について学習します。この詩にはおもしろいところがあります。今日はそれを見つけてみましょう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「船」の詩のおもしろいところを見つけ、作者が何を伝えたかったのかを考えよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習課題を書きましょう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>書く活動 ノートに課題を書く</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一つ二つの連想を児童に発表させてからそれ以外の連想をワークシートに書かせる。 ・ 書かせたものは、理由とともに2, 3人に指名し発表させる。 <p>(関)「船」という言葉から連想したり、「船」に何を乗せてみたいかを考えようとしていたりしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一気に提示するのではなく、題名から順に1行ずつ区切って板書に合わせて視写させる。 ・ 斉読後、課題をノートに書かせる。 ・ 書かせた後、詩を一度黙読させる。
	<p>3 課題を追究する</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ それでは、この詩のおもしろいところを見つけてみましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ほとんど書き込めないでいる児童には具体的におもしろい表現の箇所を指示し、「だれに言っているのか」「なぜこう書いているのか」などの支援をする。

ふ か め る 20 分	<p>○ 書き込んだものを発表しましょう。どんなところが発想のおもしろいところかを考えよう。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>書く活動 心に浮かんだイメージや自分の考えなどを書く。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 文明諸君・・・見えない相手に呼びかけている。威張っている感じ。 ・ 地球をさらう・・・相当大きな船。あり得ない。そんなことできるわけがない。地球を乗せるという考えがおもしろい。 ・ 発明できないことはないだろう・・・からかっているような感じ。皮肉っぽい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発表した内容に関連した考えはつけたして言わせるようにする。 ・ 発表するときには、どの語や文から思ったのかを言うようにさせる。 ・ 友達の発表を聞きながら、新たに気付いたところやわかったことなどをかきこむようにさせる。 <p>◎ 心に浮かんだイメージや自分の考えなどを書き込んだりすることができたか。 〈ワークシート〉</p>
ま と め る 10 分	<p>4 本時の学習をまとめる</p> <p>○ 「船」の詩で作者が伝えたかったことを書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地球はこのままで大丈夫なのか。 ・ 早く逃げ出さないと大変なことになるよ。 ・ 大変な世の中、もう一度リセットしようよ。 ・ 地球は苦しんでいるよ。助けてあげようよ。 <p>○ 「船」の詩で作者が伝えたかったことを発表しましょう。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>書く活動 「船」を読んで、作者が伝えたかったことをまとめて書く。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地球はこのままで大丈夫なのか。 ・ 早く逃げ出さないと大変なことになるよ。 ・ 大変な世の中、もう一度リセットしようよ。 ・ 地球は苦しんでいるよ。助けてあげようよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ この詩で作者が伝えたかったことを自分なりにまとめて書く。 ・ 早く進んでいる児童には、最初に自分で考えた「船」に乗せたいものと比べて思ったことなども書かせる。 ・ ほとんど書き込めないでいる児童には、「なぜ地球をさらう必要があるのか」などの視点を与える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ なぜそう考えたのか理由もつけて発表させる。 ・ 最初に自分で考えた「船」に乗せたいものと比べての感想も何人かに発表させる。 <p>◎ 「船」を読んで、作者が伝えたかったことをまとめて書くことができたか。 〈ワークシート〉</p>
ひ ろ げ る 5 分	<p>○ 発想のおもしろさを感じたところが表れるように隣同士ペアになって音読しよう。</p> <p>5 次時の予告をする</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ どういう風に工夫して読むかをお互いに言い合い、それが表れているかどうかを評価し合うようにさせる。 ・ 代表として数人指名して発表させる。

(4) 板書計画

詩を味わおう
船

山之口 獏

課題 詩のおもしろいところを見つけ、
作者が何を伝えたかったのか考えよう。

視写文

◎おもしろいところ

○文明諸君

- ・ 見えない相手（文明諸君）へ呼びかけている
- ・ いばっている。

○地球をさらう

- ・ そんな船できるの？地球がさらえるの？
- ・ さらうという考えがおもしろい。

○発明できないことはないだろう

- ・ からかっているみたい。皮肉っぽい。

◎作者の伝えたかったこと

- ・ 地球はこのままで大丈夫？
- ・ 速く逃げ出さないと大変なことになるよ。
- ・ 大変な世の中、リセットしようよ。